

南の風 391

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

③の、ずっと負けていたのに逆転したが、再び逆転されて負けたケースです。(仮想して考えます)
例えば3Qまで10点負けていて、4Qで逆転したけれども再逆転されて負けたとします。

こういうケースでは、一度逆転するまでのゲームの流れと、再逆転されてしまう経緯を分析しなければ
ならないと思います。

①4Qの出だしから戦術が機能し、展開が有利なり点差を詰めることができた

②若干の紆余曲折があったが、流れをつかみ逆転した

③逆転した時点で残り時間2分、さらに点が入りリードが広がる(4~5点)

相手がタイムアウトを取ったとします。

ゲームの流れは逆転したチームに傾いているように見えます。戦術(ここではオールコートプレスが奏
功したとします)がうまく行き、相手のボール運びを潰しパスカットや、8秒やショットクロックが有利
に働き、逆転しリードしました。

ここで相手がタイムアウトを取りました。相手ベンチの指示は、おそらくボール運びについてと落ち着
きを取り戻すためのメンタル面のケアが考えられます。

逆転したチームのディフェンスの指示は、大きく二つに分かれることになります。

(1)押し押せでいくために、また相手にダメージを与えるためにオールコートプレスの続行

(2)一旦ハーフのマンツーマンに戻し、堅実に守る

今回は、再度逆転されて負けてしまう想定ですから、あくまで仮想とします。

**『逆転したベンチが、(1)のオールコートプレスを続行したが、相手に上手く運ばれアウトナンバーか
ら得点されてしまい、さらにあわててオフェンスミスが生じ、一気に再逆転されてしまった』**とします。

結果だけで語ることは、避けなければいけません。私の考えを書きます。

結論から書きます。(2)を選択すべきです。なぜなら、確かにオールコートプレスは十分機能し逆転まで
いきました。但し、相手のタイムアウトで流れが変わる可能性は大です。運びをきちんと考えてくること
は容易に想像することができます。オールコートプレスを続けることはリスクが高いと考えます。

ここは、残り時間(2分)を考えディフェンスをハーフに戻し、相手にやらせてはいけないオフェンス
プレーを指示します。さらにディフェンスリバウンド(ボックスアウトを含めて)をチーム全体で徹底す
るようにします。さらに相手のプレスに対する運びもしっかり確認しておきます。

相手にやらせてはいけないオフェンスプレーとは、このゲームで当たっている相手選手のシュートは
できる限りチェックするとか、相手の得意とするスクリーンプレーを阻止するとかです。

もう一つは、シュートに対するファウルをしないことです。**時間を止めて得点されることは絶対避け
なければなりません。**(当然チームファウルも視野に入れておく)

こう考えるとこのゲームのクリティカルモメントは、4Qに相手が取ったタイムアウトにあったと
言えるかもしれません。次号にします。